



Prader-Willi症候群 の運動症候 -再考-

横地健治

ジョゼフ＝マリー・ヴィアン 「アモルを売る女」
1763 フォンテーヌブロー宮国立美術館

1



frog postureの過活動筋
・肩伸展筋(広背筋が主)
・腰椎伸展筋
・股屈筋・股外転筋

低活動筋
・股伸筋

2

1



見かけ上の股屈曲拘縮
腰椎伸展筋(広背筋が主)
股屈筋・頸後屈 の過活動

いざりの推進筋
• 膝屈筋
• 股外転筋
• 骨盤前傾筋(腸腰筋)



3



右足振り上げ
本幹屈曲

右足振り上げ
体幹伸展

右足振り下げ

股屈筋・体幹伸展筋
大殿筋のelastic recoil
股屈筋の過活動

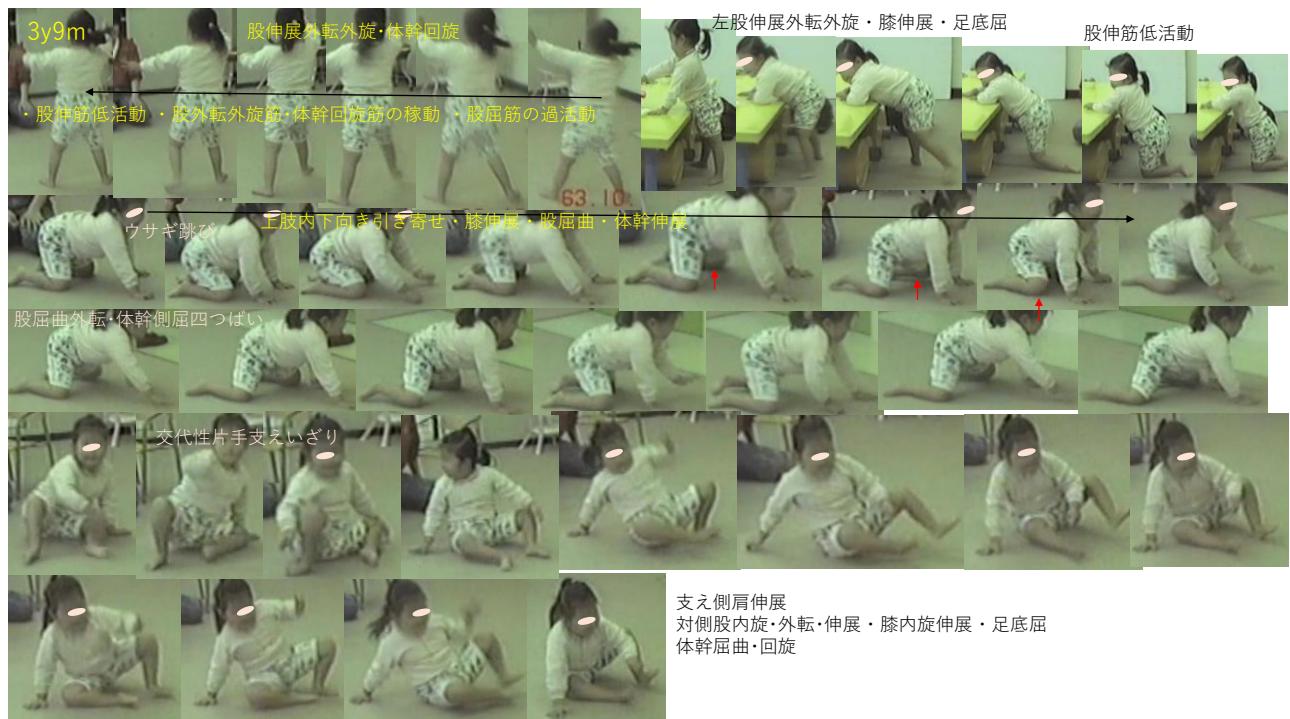
振り下ろし(股伸展・外転・外旋・膝伸展)←左足振り上げ(股屈曲・内転・膝屈曲)

4

2



5



6

3



7



8

4



9



10



11



股外転小刻み振子歩行

高ばい段差越え

12



股屈曲外転・骨盤回旋歩行 足投げ出し

13

Prader-Willi症候群の運動障害

- Prader-Willi症候群にみられる患者の運動障害の本体は、運動開始に伴う基盤筋活動の抑制が不完全であることと、基盤筋活動と対抗し、かつ運動目的を果たすため筋活動が不十分であることによる。よって、運動可動域の制限、運動方向の偏位、体幹運動による代償がみられる
- 下肢運動では、広背筋の過活動による腰椎伸展の優勢と骨盤後傾、腸腰筋の過活動による股屈曲の優勢と骨盤前傾の複合の基盤筋活動が完全に抑制されない。腸腰筋過活動の股屈曲と広背筋過活動の腰椎伸展の複合により腰椎前弯となる。乳児期の背臥位姿勢では、股屈曲内転位保持ができない。移動運動の最大の制約は股伸筋荷重である。
- 肩伸展・内転・内旋・頸伸展の筋活動がわずかに優勢である。これは軽微な問題に過ぎない

14